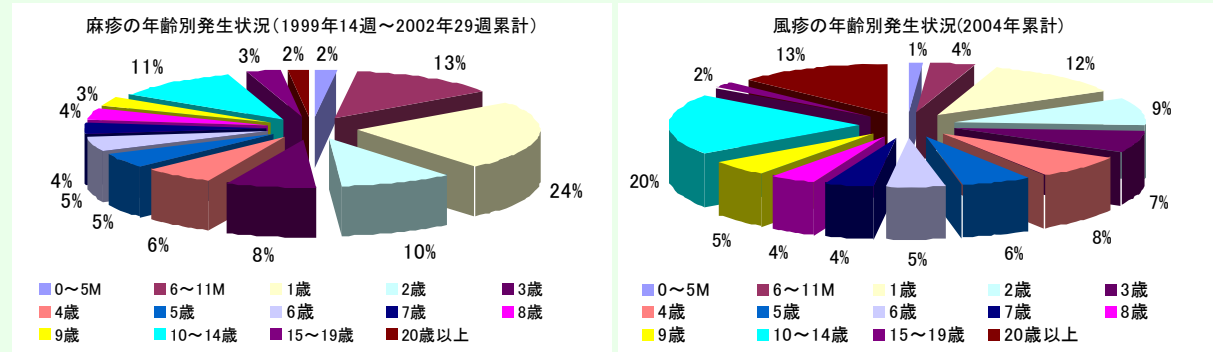


ビケンワクチンニュース

【ミールビックQ&A 臨時号】

Q. 2006年4月1日から施行された予防接種法施行令で、第1期の接種年齢が『生後12月から生後24月に至るまでの者』に設定されている理由は？

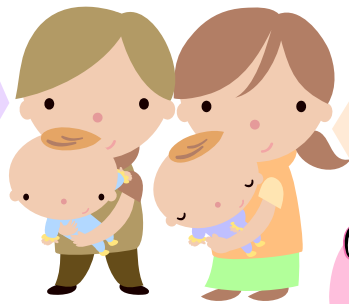
A. 麻しんや風しんは幼児期早期にかかってしまうことが多いため、麻しんと風しんの予防接種は、お母さんからの免疫がなくなる生後12月以降なるべく早期に接種することにより、お子様自身の予防だけでなく、社会全体の感染症予防（まん延防止）に大変重要と考えられるためです。



【厚生労働省HP: <http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/09/tp0921-1.html>、国立感染症研究所感染症情報センターHP: http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/report2002/measles_top.html、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2005d/20douko.html#2005week20>】

Q. ミールビックのカラーは？

A. 箱、キャップ、ラベル、予診票に使用されているイメージカラーは、紀州色上質紙白茶色です。



Q. 2006年4月1日から施行された予防接種法施行令で、第2期の接種年齢が『5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達するまでの日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者』に設定されている理由は？

A. 現状では抗体価が5年を過ぎると減少し始め、今後自然流行の減少により、野生ウイルスによるブースター効果がほとんどかからず、抗体価の減衰が更に早まることが予想されます。接種率の確保の点からも、就学後よりは就学前が有利であるということから、2期の接種時期が決まりました。

【第4回予防接種に関する検討会議事録: <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/01/txt/s0114-2.txt>】

Q. ミールビックを使用することの有用性は？

A. 麻しんと風しんを排除するためには、高い接種率を維持することが必要です。しかし、風しんワクチンの接種率は麻しんワクチンの接種率と比較すると、低いのが現状です。そこで、麻しん、風しんワクチンを混合したミールビックを使用することにより、風しんワクチンの接種率を麻しんワクチンの接種率並みに向上が図れるものと期待しています。ひいては、風しんの最重要課題である先天性風しん症候群の発生阻止につながることを期待されています。

【第4回予防接種に関する検討会議事録: <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/01/txt/s0114-2.txt>】

Q. 麻しんと風しんの2回接種制度が導入される理由は？

A. 麻しんと風しん対策をさらに強化するため、より高い予防効果が期待される2回接種を導入することになりました。麻しんと風しん対策をより一層強化することとなった背景は、日本を含むWHO西太平洋地域において、2012年までに麻しんを排除することを目標として設定したことが考えられます。

【厚生労働省HP: <http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/09/tp0921-1.html>】

企画編集 : 財団法人阪大微生物病研究会 (<http://www.biken.or.jp>)
 臨時号担当 : 藤田、福田、福原、鷹尾
 発行 : 財団法人阪大微生物病研究会 / 田辺製薬株式会社



▲上記本文中のホームページの内容に関するお問い合わせは、お受けしておりません。

BI-S07350604B03